

はじめに

ペットブームと言われて久しいが、ペット産業の市場規模は 2004 年に 1 兆円を突破したとみられ、さらに拡大の一途をたどっている。

そこで当社では、ペットを取り巻く現状を把握するため、県内消費者を対象に、ペットに関するアンケートを実施した。以下はその結果である。

| アンケートの概要 | |
|----------|--------------------------------------|
| 1. 調査対象 | 愛媛県内在住の個人 |
| 2. 調査方法 | 伊予銀行支店にてアンケート用紙を配布、郵送で回収。無記名方式。 |
| 3. 調査時期 | 2009 年 9 月上旬～中旬 |
| 4. 回答状況 | 配布数 1,000 有効回答数 613 (有効回答率 61.3%) |

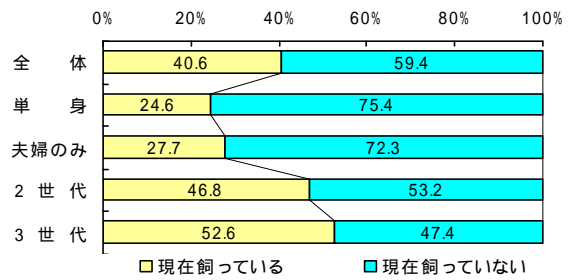
回答者属性

| | | |
|------|------------------|------------|
| 性別 | 男性 26.3% | 女性 73.7% |
| 年齢 | 30 歳未満 14.4% | 30 代 19.1% |
| | 40 代 27.0% | 50 代 20.9% |
| | 60 歳以上 18.6% | |
| 居住区域 | 東予 37.9% | 中予 43.6% |
| | 南予 18.5% | |
| 世帯構成 | 単身 10.0% | 夫婦のみ 21.3% |
| | 2 世代(親+子) 55.4% | |
| | 3 世代(親+子+孫) 9.7% | その他 3.6% |

1. 現在の飼育状況

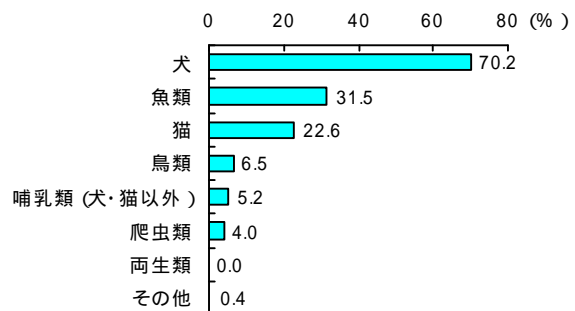
現在ペットを飼っているか尋ねたところ、40.6%が「飼っている」と回答した。世帯構成別にみると、単身や夫婦のみの世帯では飼っている人が 3 割に満たないが、2 世代世帯では 46.8%、3 世代世帯では 52.6%となった。これは、住環境や日中の世話といった点で、2 世代・3 世代世帯の方が飼いやし環境にあるからだと思われる。また、販売店からは「ペットを子供代わりや生活のパートナーとして買い求める単身者・中高年層が増えている」との声もあり、今後の少子高齢化の中で、ペットを飼う人はさらに増加すると思われる。

図表-1 ペットの飼育状況 (n=613)



また、何を飼っているか尋ねたところ、最も多かったのは「犬」(70.2%)、次いで「魚類」(31.5%)、「猫」(22.6%)となった。従来から人気の高い犬に加え、室内でも気軽に飼える魚類、散歩が不要な猫など、自身のライフスタイルに合ったペットが選ばれているようだ。

図表-2 現在飼っているペット (n=249、複数回答)



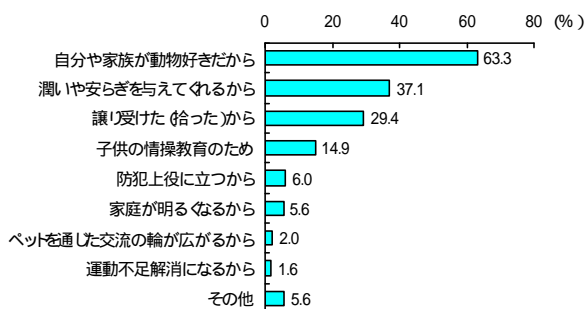
2. ペットの存在とは

現在ペットを飼っている人に飼い始めたきっかけを尋ねたところ、「自分や家族が動物好きだから」(63.3%)が最も多く、次いで「潤いや安らぎを与えてくれるから」(37.1%)となった。かつては防犯などの実用的な理由で飼われていたペットに、今は“癒し”としての役割も求めているようだ。

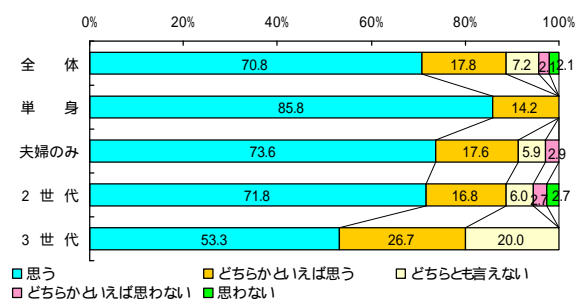
また、ペットを家族の一員と思うかとの問いには、約 7 割が「思う」と回答し、「どちらかと言えば思う」を合わせると約 9 割に達した。特に、単身や夫婦のみの世帯ほどその傾向が強く、ペットが子供やパートナー代わりの存在となっていることがうかがえる。日々の世話を通して、徐々にペットの存在感が大きくなり、最

最終的にはかけがえのない家族の一員となっていくようだ。

図表-3 飼い始めたきっかけ (n=249、複数回答)



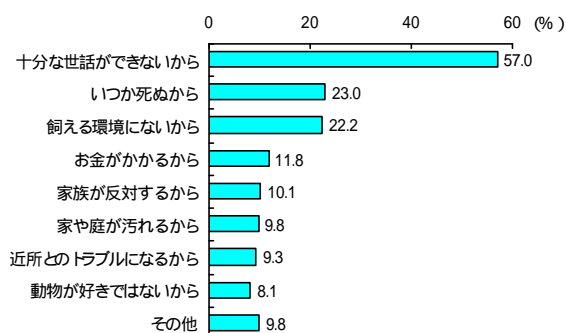
図表-4 ペットは家族の一員か (n=249)



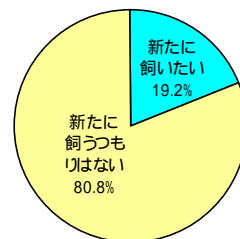
3. ペットを飼わない理由

現在ペットを飼っていない人にその理由を尋ねたところ、最も多かったのは「十分な世話ができないから」(57.0%)、次いで「いつか死ぬから」(23.0%)、「飼える環境にないから」(22.2%)となった。ちなみに、今後の飼育意向を尋ねたところ、「新たに飼いたい」との回答は19.2%となった。

図表-5 ペットを飼っていない理由 (n=364、複数回答)



図表-6 今後の飼育意向 (n=364)



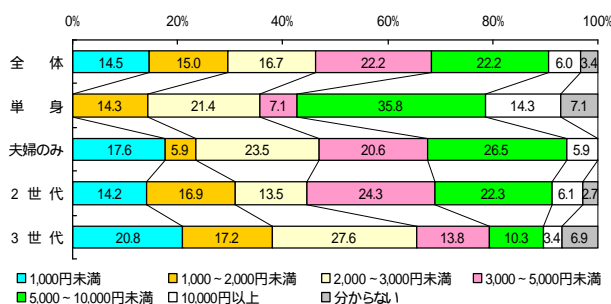
しかし最近では、ペット飼育可能なマンション等も増加しており、これまで環境面がネックで飼えなかった人は、新たな飼い主になる可能性を秘めている。

4. 支出金額

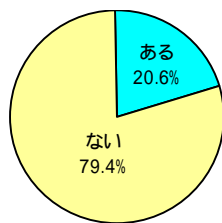
1ヵ月間のペット関連支出金額を尋ねたところ、「3,000~5,000円未満」「5,000~10,000円未満」との回答が、それぞれ22.2%で最も多かった。世帯構成別にみると、単身世帯が最も支出金額が多く、2世代・3世代と世帯人数が増えるにつれて、支出金額が少なくなっている。

そこで、ペットを飼い始めたことで代わりに減らした支出があるか尋ねたところ、「特になし」が79.4%と、無理のない範囲で飼っている人が多いようだ。ただし、約2割は何らかの支出を削って飼育費用を捻出している。具体的な費目で最も多かったのは「旅行・レジャー費」(44.7%)で、次いで「食費・外食費」(34.0%)となった。飼い主にとって、家族の一員であるペットへの支出は必要経費という位置付けであり、他の費目に優先するものかもしれない。

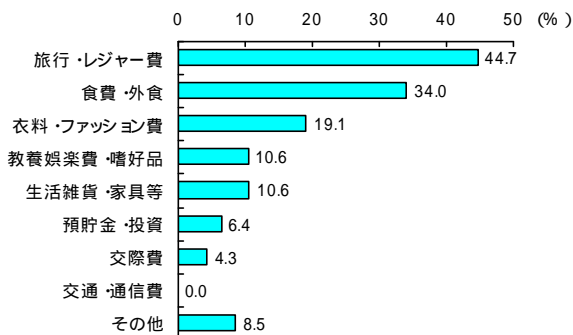
図表-7 月間のペット関連支出金額 (n=249)



図表-8 代わりに減らした支出 (n=249)



図表-9 具体的な削減費目 (n=47、複数回答)



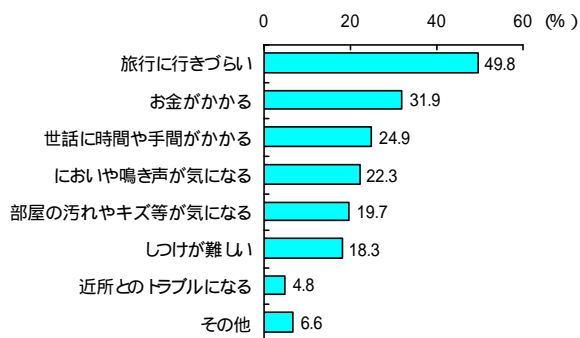
5. 飼い主のニーズと関連サービス

ペットを飼って困ること、大変なことを尋ねると、「旅行に行きづらい」(49.8%)が最も多く、次いで「お金がかかる」(31.9%)、「世話に時間や手間がかかる」(24.9%)となった。これらは前述のペットを飼っていない理由とも重なる部分があり、こうしたペットの飼育によって生じる様々な問題を解消するために、近年は多種多様なサービスが登場している。

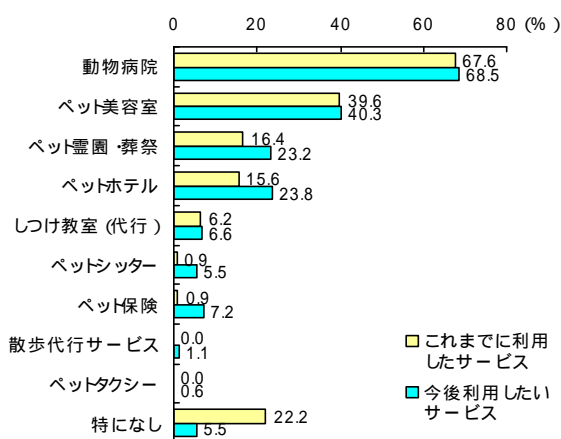
これまでに利用したことのあるサービスを尋ねたところ、最も多かったのは「動物病院」(67.6%)、次いで「ペット美容室」(39.6%)となった。一方、「ペットシッター」や「ペット保険」を利用したことのある人は少なかったが、今後利用したいと考える人は増えており、こうしたニーズの高いサービスを中心に、今後さらにペット関連サービスの裾野は拡大していくものと思われる。特に、ペットの高齢化を背景に、全国ではペット用老人ホームやホスピスといった施設が登場し、愛媛でも移動火葬サービスなどの新ビジネスが誕生している。医療・介護分野やペット霊園・葬祭などは、今後の成長が大いに期待される分野と言える。

図表-10 ペットを飼って困ること・大変なこと

(n=249、複数回答)



図表-11 ペット関連サービスの利用 (n=249)



おわりに

長引く景気低迷の中で、順調に成長を続けてきたペット業界。少子高齢化や未婚者の増加といった社会的要因にも後押しされ、今後もさらなる市場拡大が予想されている。もはやペットは単なる愛玩動物ではなく、家族の一員として大きな存在感を示している。

しかし、愛媛県動物愛護センターによると、犬・猫の処分依頼は後を絶たず、年間では約7,000頭が殺処分となっており、全国では約30万頭にも上るそうだ。かわいいから、癒されるから・・・飼い始める理由は様々である。しかし、飼い主となる以上は、命の尊さや責任ある飼育についても真剣に考えるべきではないだろうか。

(河野 静香)